



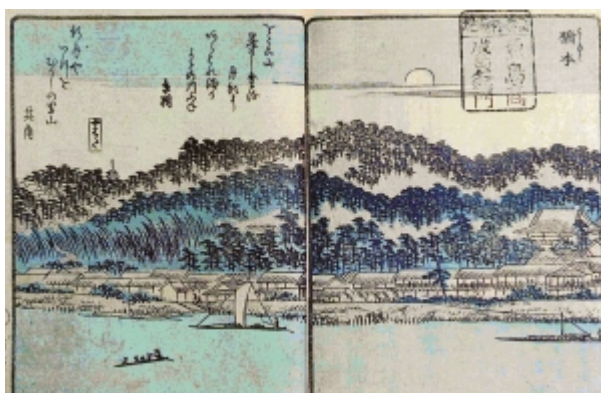
●三川合流と淀川の渡し

近畿地方の主要な河川の一つとして、今も人々の暮らしを支えている淀川は、大阪府と京都府の府境部分、桂川・宇治川・木津川の三川が合流するところから始まります。京都府八幡市内の男山と、歴史的にも有名な天王山を近い距離に置く、山崎狭隘部きょうあいと呼ばれている場所です。

摂津と河内の国を隔てていた大河、桂川・宇治川・木津川の流れを結ぶ淀川の渡しは、古くから多くの人々に利用されていました。古事記すいにんの垂仁天皇の条に「久須婆すばの度わたり」の記事があり、そこには『奈良より西国、南海に旅する者は木津川を下り、淀川に出て川を下るか、川幅の狭い山崎で渡河し、山陽道を西下するか』という記述が残されています。その他、紀貫之の「土佐日記」にも登場し、また、菅原孝標たかすえの娘によって書かれた「更級日記」でも、筆者が和泉国に下った際に高浜に船をとどめたことが見られます。さらに、近代では、谷崎潤一郎の小説「蘆刈あしかり」の舞台になったことでも有名です。

島本町山崎と対岸の八幡市橋本を結ぶ山崎の渡しは、西国街道と京街道を連絡する二つの幹線道路の重要な結節の役割を果たしてきました。

すぐ西には広瀬の渡し、そして高浜の渡しもあり、それぞれに古い歴史と役割を担ってきました。明治以



降の日本の近代化と陸上交通機関の発達により、時代の変遷はその役割を減少させ、広瀬の渡し、高浜の渡しと廃止され、昭和37年4月に、山崎の渡しも最後を迎えることとなりました。

現在、本町の淀川の河川敷はゴルフ場のほか、サイクリングやウォーキングなどを楽しむ人たちのスポーツレクリエーションの場として活用されていますが、葦よしの生い茂った浅瀬部分は、人に代わって渡り鳥たちの中継地となっています。また、三川合流の全景は、若山神社など町内の丘陵部から展望することができ、ハイキングに訪れる人々の足を止めています。



▼お問い合わせ先▼

島本町教育委員会社会教育課

TEL 075-962-0792